

都道府県名	宮崎県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	五ヶ瀬町立三ヶ所中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	2	0	4	15
生徒数	37	37	50	0	124	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に学ぶ力を育むための学習活動の在り方

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年・5教科の単元別学力向上プリント（生徒一人一人の理解度に応じた学習を進めるため）
 全学年・数学科の習熟度別学習・チームティーチング・少人数指導
 （理解が不十分な内容のフィードバックが必要と思われるため）
 全学年・選択教科の多様な履修コース（選択教科の幅の拡大により、個に対応し生徒の学習意欲につながるため）
 全学年・5教科における小テスト（基礎的・基本的事項の確認が大切であると思われるため）
 全学年・全教科の自己評価の工夫（評価を指導につなげることが必要と考えられるため）

(2) 年次ごとの計画

テーマ
 主体的に学ぶ力を育むための学習活動の在り方
 ～ 確かな学力を身に付けるための学習指導法及び学習環境の工夫改善を通して ～
 仮説
 基礎的・基本的学習内容の定着の方法や場の工夫により、生徒一人一人に学習への達成感を味わわせたり、学級経営をはじめとする学習環境の見直しを図るなどの研究と実践を通して、主体的に学習できる生徒を育成することができるであろう。
 研究内容・方法
 本年度は「学力向上のための土台・土壌作り」を目指して、学習意欲を喚起するための学習環境を整えていくことを目的とした「学習環境研究班」と、具体的な学習指導に関わる生徒の学力向上を目的とした「学習指導研究班」の2班で研究を進めていった。
 その具体的な研究内容や方法については以下の通りである。

平成14年度

学習指導研究班

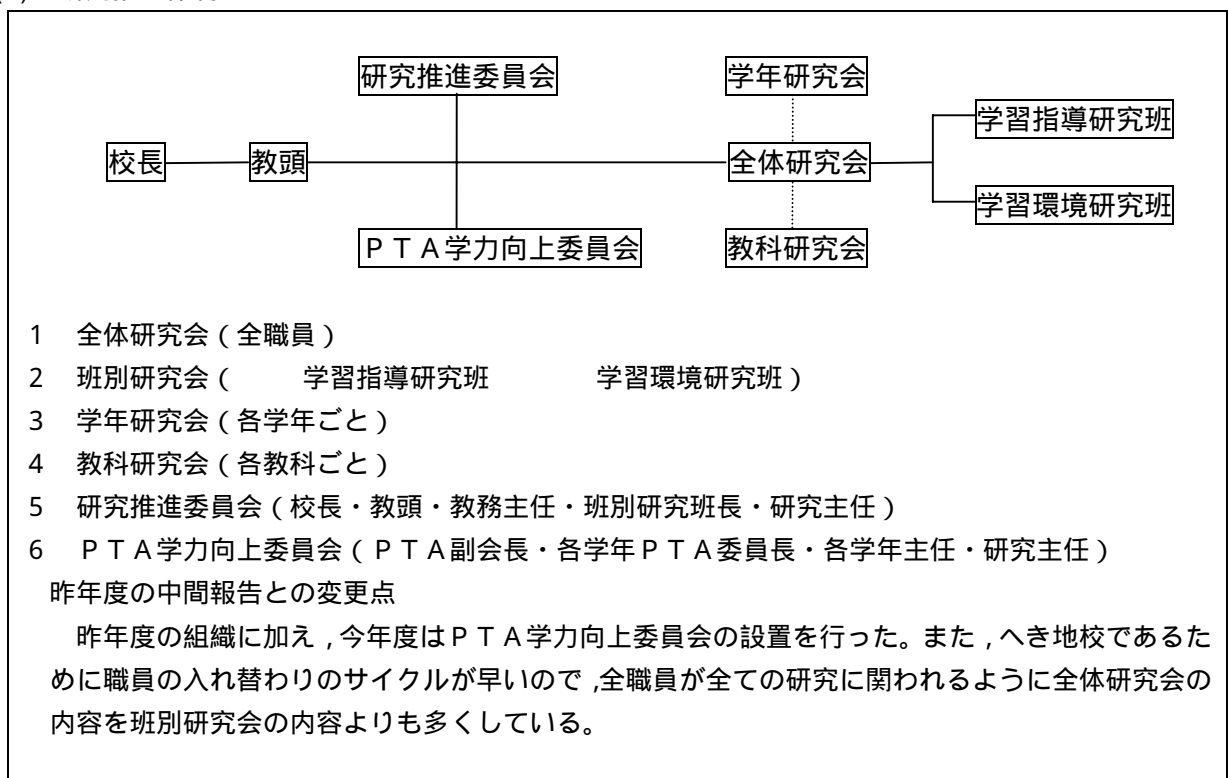
ア 授業導入部の小テスト実施
 イ 学習実態把握のアンケートの実施と分析
 ウ 標準学力テストの実施と分析
 エ 自己評価の工夫
 オ 単元別学力向上プリント（Momijizaka プリント）を活用した学力向上の時間の実施
 カ 選択教科における学習ファイルの活用やコースの幅の拡大
 キ 基本コースと応用コースに分かれた習熟度別指導（英語・数学の選択教科）
 ク 家庭学習の支援の工夫

	<p>学習環境研究班</p> <p>ア 道徳性検査「HUMAN」の実施と分析</p> <p>イ 「思いやり集会」の実施</p> <p>ウ 「一日の学校生活における常時指導の留意点」表の作成と、全職員への配布</p> <p>エ 「学習の心得7か条」「発表の仕方・聞き方」「グループでの話し合い方」等のシート作成と、全校生徒への配布</p> <p>オ 掲示板の張り替えや学級設営コンクールなど、学習意欲を高めるための教室設営</p> <p>カ 清掃指導集会の実施による学習環境の整備</p> <p>キ 全職員による道徳教育・同和教育の授業実施</p> <p>ク ミニ国語辞典の全校生徒への配布</p> <p>ケ 小中合同研修会の実施</p>
--	--

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>主体的に学ぶ力を育むための学習活動の在り方 ～ 個に応じたきめ細かな指導を通して ～</p> <p>仮説</p> <p>小テストやMomi jizaka プリントを継続しながら、学習の場において、個に応じたきめ細かな指導と学力向上の工夫を行えば、自ら学ぶ意欲をもち主体的に学習する確かな学力をもった生徒を育成することができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>平成15年度は14年度に作り上げた土台の上に、少人数指導や確かな学力を身に付けさせる指導過程の工夫の研究をする「学習指導研究班」と、学習環境や地域との連携について研究する「学習環境研究班」の2班で研究を進めた。</p> <p>全体研究会</p> <p>ア 各教科における「確かな学力」とそれを確実に定着させる手だて</p> <p>イ 指導過程の工夫ときめ細かな指導について</p> <p>ウ 学力標準テストの分析と活用</p> <p>エ 学力向上プリントの作成と活用</p> <p>オ 「確かな学力」を身に付けさせるための評価の工夫</p> <p>カ 指導案の工夫・改善</p> <p>学習指導研究班</p> <p>ア 少人数学習集団の編成や活用の工夫</p> <p>イ 確かな学力を身に付けさせる指導過程の工夫</p> <p>ウ 少人数指導における評価の工夫</p> <p>学習環境研究班</p> <p>ア 学習態度の徹底</p> <p>イ 学習に関するアンケートの実施と分析，考察</p> <p>ウ 学習意欲を喚起する学校・教室の設営</p> <p>エ 家庭・地域との連携</p> <p>昨年度の間接報告との変更点</p> <p>昨年度の間接報告では、人的環境の整備に重点をおいた計画が立てられていたが、情報の発信などを重視して、PTA学力向上委員会の設置をはじめとした、地域や家庭との連携を学習環境研究班の研究の一つに加えた。</p>
--------------------	--

平成 16 度	<p>テーマ 主体的に学ぶ力を育むための学習活動の在り方 ～ 個に応じたきめ細かな指導と学力向上の工夫を通して ～</p> <p>仮説 学習指導の場において、個に応じたきめ細かな指導と学力向上の工夫を行えば、自ら学ぶ意欲をもち主体的に学習する確かな学力をもった生徒を育成することができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 平成16年度は、個を生かすきめ細かな指導について研究する「学習指導改善研究班」と、基礎的・基本的事項の徹底を目指す「基礎学力向上研究班」の2班で学習支援についての研究を進めていく予定である。</p> <p>学習指導改善研究班 ア 個に応じた問題解決的な指導過程の工夫 イ 「基礎学力の定着の不十分な生徒」への具体的な支援 ウ 生徒の自己教育力の育成 エ 個を生かすきめ細かな指導 オ 学習意欲を喚起するための手だて カ 生徒の学習支援を目的とした自己評価の改善</p> <p>基礎学力向上研究班 ア 学力向上タイムの工夫改善 イ 家庭学習に対する支援の在り方 ウ 基礎基本の確かな定着を図る工夫 エ 家庭や地域との連携 オ 習熟度別少人数学習集団の編成や活用の工夫</p>
---------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

ア 指導過程の工夫ときめ細かな指導について

「確かな学力」を「学ぼうとする力」「学びの基礎となる力」「学び続ける力」と定義し、各教科で明確にすることにより、これまで以上に授業において意識して生徒に指導することができた。また、この定着のための指導を「きめ細かな指導」と位置づけ、各教科で工夫が見られた。

イ 学力向上プリントの作成と活用について

昨年度から継続して、学力向上プリント（Momijizaka）を活用した学力向上の時間を実施することによって、生徒は意欲的に取り組むようになった。また今年度は、各自で問題を解き、自己採点を行い、合格したら次のプリントに進むという形に変更したことで、より主体性な学習ができるようになった。

ウ 「確かな学力」を身に付けさせるための評価の工夫について

授業前の小テストや単元ごとのテストを実施することによって、基礎的・基本的な内容の定着をはかるとともに、生徒の実態を把握し、次の授業に活かすことができた。

エ 少人数学習集団の編成や活用の工夫について

数学、英語において1クラスを2つに分けた少人数指導を行った。クラスの分け方や進度、評価の仕方などまだまだ研究を深める必要があるが、生徒からは「以前の授業よりわかりやすい」「発表や質問がしやすくなった」などの感想が聞かれた。また、社会科では、同じ教科の教師による複数指導をはじめ、コンピュータを活用した授業では、技術科の教師が指導に入るなど、他教科の教師が加わって指導する形での授業も実践し、生徒に専門的な知識を定着させることができた。

オ 学習態度の徹底について

学習態度の徹底について「学習の7か条」「話し合いマニュアル」を中心に授業態度の徹底を昨年度より継続して行うことによって、授業態度の改善を図ることができた。

カ 学習意欲を喚起する学習環境の整備について

学習意欲を喚起するために学校、教室の設営の工夫を行った。各学級に「学習コーナー」を設けて、生徒が授業の要点をまとめたものを掲示することによって、学習への意欲を以前より高めることができた。

キ 家庭・地域との連携について

P T A 学力向上委員会を設置し、家庭学習の充実、情報の発信、地域人材の活用等を主に活動することによって、地域や家庭との連携を図ることができた。また、小・中連携として夏季休業中に、本校に入学する4つの小学校と合同研修会を実施した。各学校の児童・生徒の実態や、今年度の研究内容について発表、協議を行うことによって、共通理解が深まり、学習指導、生徒指導に活かすことができた。

2. 今後の課題

ア 個を活かし、生徒の能力を引き出すための、評価を一層工夫しなければならない。

イ 「基礎学力の定着の不十分な生徒」への具体的な支援について、少人数指導の研究実践や指導過程の工夫をさらに推進していかなければならない。

ウ 「宅習マニュアル」の工夫改善を図り、自ら課題を見つける家庭学習の在り方への支援を充実させなければならない。

エ 「P T A 学力向上委員会」の活性化を図り、家庭学習の定着と充実のために保護者との連携や啓発に一層努める必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- 1 標準学力テストの実施と結果の分析（年1回）
- 2 定期的な学力調査の実施（年5回）
- 3 授業導入部における小テストの実施（授業開始時）
- 4 漢字検定や英語検定の実施（年3回）
- 5 基礎学力調査の実施（2年生のみ・年1回）
- 6 実力テストの実施（3年生のみ・年3回）
- 7 単元別学力向上プリントの実施（週1回）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 地区懇談会
日 時.....平成15年7月4日
場 所.....坂狩公民館（坂本小校区）・上組公民館（上組・桑野内小学校区）
赤谷公民館（三ヶ所小学校区）
対 象.....保護者全員
目 的.....学力向上のための取組状況の報告
- 2 小中合同研修会
日 時.....平成15年8月1日
場 所.....三ヶ所中学校
対 象.....三ヶ所中学校校区内全小学校
（三ヶ所小学校・坂本小学校・上組小学校・桑野内小学校）の全職員
目 的.....学力向上のための取組状況の報告
三ヶ所中学校生徒の学力の実態・各小学校の学力実態の情報交換
- 3 中間発表会
日 時.....平成15年11月19日
場 所.....三ヶ所中学校
対 象.....西臼杵郡内全小・中・高校
目 的.....研究授業の実施と今年度の取組の発表，協議
- 4 HP作成に関する今後の予定（<http://www.miyazaki-nw.or.jp/sangasyoj.h.s/>）
昨年度作成したHPを今年度新たに更新した。来年度も随時更新する予定である。

【新規校・継続校】

15年度からの新規校

14年度からの継続校

【学校規模】

3学級以下

4～6学級

7～9学級

10～12学級

13～15学級

16学級以上

【指導体制】

少人数指導

T・Tによる指導

その他

【研究教科】

国語

社会

数学

理科

外国語

音楽

美術

技術・家庭

保健体育

その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】

有

無